

助成年度：平成 20 年度

[所属] 群馬大学 教育学部

[役職] 講師

[氏名] 熊原 康博

[課題]

中山道の地形環境の把握に基づく歴史的街道筋の新たな価値創成

[内容]

本研究は、江戸時代に整備された五街道の一つ中山道を事例として、経済活動の幹となる街道筋における地形環境を、「空中写真・旧版地形図の地形判読」や「現地調査」により包括的に把握し、人間活動と自然環境の歴史的な結びつき、街道沿いの豊かな自然環境の多様性を実証的に導き、歴史遺産としての街道の新たな価値を創成することを目的とした。調査により以下のような結果を得た。

- 1) 関東平野における中山道の地形条件の解明 平野地域における街道の地形条件の特徴を明らかにするため、中山道の関東平野の範囲を対象に実証的に検討した。本研究で明らかになったことは、平野全体で見えた場合、台地をできるだけ通過し、山地や丘陵、沖積面を避ける傾向があることである。また、地形面ごとに見た場合、台地では開析谷を避け、面の分水界に沿う傾向があること、沖積面では自然堤防を伝い、旧河道や後背湿地、河川を可能な限り通過しないことである。これらの特徴からは、高低差を少なくする通行の容易性と、水害を避けるという安全性に両面に配慮していることが指摘できる。
- 2) 中山道と甲州街道の比較から見た中山道の優位性 江戸時代を通じて中山道のほうが甲州街道よりも利用され、参勤交代も中山道が主たるルートであったが、その理由については明らかではなかった。距離や高低差、最高地点の標高、気候条件を見ても甲州街道のほうが有利である。しかし、中山道は、倉賀野宿から利根川水運によって物資を日本橋まで運ぶことができる。これは、下諏訪宿から日本橋までのおよそ半分にあたる。逆に、甲州街道は、街道に沿う水系が富士川、相模川、多摩川と分断され、水運を利用した場合、海を経由する必要がある。中山道の場合、倉賀野宿まで陸路で運ぶと、大量輸送、安価、迅速であるという利点をもつ水運を利用でき、それが中山道が主たるルートになった最大の理由と結論づけた。